

資料説明

R6.11.8～11.21

それでは資料1の2ページをお開きください、こちらは本会の目的を記載しておりますが、先ほどの教育長のあいさつでも触れておりますことから説明は省略いたします。

3ページをお開きください。「2.学校配置の経過概要」です。

はじめに、現在の小中学校の配置は、青文字の上から2つ目と最後のポツに記載している「平成24年11月に策定した深川市学校配置基本方針」と「平成29年1月に決定した深川市学校配置基本方針に基づく小学校にかかる対応について」に沿ったものですので、後ほど詳しくご説明いたします。

現在の小学校の配置の経過については、1つ目のポツに記載しておりますが、平成21年6月にPTA役員、各町内会役員、学校関係者などからなる「学校関係者による懇話会」を開催し、学校の配置に係る意見、提案等をいただき、その後、深川市教育委員会では、地元協議等を開催する中で、平成24年11月に本日別添1として配布している深川市学校配置基本方針を策定しました。

この方針に基づき、3つ目のポツに記載のとおり、平成26年4月に中学校を5校から2校に統合することとしました。

なお、小学校の配置については、平成28年に再度検討することとしたため、ポツの4つ目と5つ目に記載のとおり、平成28年8月に小学校の配置に関する地域協議会を開催し、平成29年1月には、現在の小学校の配置の根拠となっている「深川市学校配置基本方針に基づく小学校にかかる対応について」を決定し、現在の小学校6校の配置に至っております。こちらは本日別添2として皆様に配布して

いるところ です。

次に 4 ページをお開きください。

先ほど触れました「平成 24 年 1 1 月に策定した深川市学校配置基本方針」についてご説明いたします。

記載している内容は抜粋となりますが、この方針の中では、上段に記載しているとおり、

「学校の配置の望ましい姿について」として、児童生徒にとって望ましい教育環境を提供するためには、「クラス替えができることの効果」や「適度な切磋琢磨が必要である」などという観点から、小学校、中学校とも 1 学年 2 学級から 3 学級の標準規模が望ましい。

ということや、小学校については、通学時間に配慮した学校配置とする。

などの考え方を基本としており、これを受け、下段に記載しているとおり、

「小学校 6 校においては、複式学級による学校運営がなされている小学校もありますが、児童の基本的な生活習慣の習得や学びの姿勢を自覚するなど生活面を重視し、当面現在の学校配置を維持します。ただし、平成 28 年度以降において、改めて、児童数等の状況、社会情勢の変化などを踏まえ、保護者等地域との検討を行います。」

として、当時の小学校配置に関する考え方を平成 28 年度以降に改めて検討するという整理をしております。

次に 5 ページをお開きください。

平成 29 年 1 月に決定した、現在の小学校の配置の根拠となっている「深川市学校配置基本方針に基づく小学校にかかる対応について」をご説明いたします。

小学校の配置については、平成28年8月から学校関係者とともに検討を開始し、上段に記載しているとおり、

- ・平成33年度(R3)までの児童数及び学級数の推計については、平成24年度の基本方針策定時と大きくは変わらない。
- ・学校施設の状況においても当面使用に支障がない。

など、平成28年度時点における現状を把握した上で、下段に記載しているとおり、

「小学校の学校配置については、当面は平成24年11月に決定した配置案を継続することとし、今後は極端な児童数や学級数の減少や社会情勢の変化等が見込まれる場合に、配置案の検討を行うものとする。」

として、当時の小学校配置に関する考え方を整理し、この考え方が現在まで小学校配置の基本となっております。

次に6ページをお開きください。「3.将来推計」についてご説明いたします。

一度、資料2-1をご覧ください。

こちらは、5月1日現在の住民基本台帳から計算をした市内小学校児童数の合計となっております。現在の0歳が就学するまでの6年間を推計しています。令和6年には市内全体で670人の児童がおりますが、令和11年には483人と187人が減少する推計となっております。

次に、資料1の6ページと2-2をセットにしてお手元に並べていただきたいと思います。

資料2-2については、各学校の児童数を推計しているものとなりますが、今回、資料1の6ページにおいて、多度志小学校を例として資料2-2の見方をご説明いたします。

資料1の6ページをご覧ください。縦軸が年度、横軸が学年と特別支援学級としておりまして、まずは青色の四角と吹き出しをご覧ください。

5・6年生のところにコの字型のマークとその横にカッコ1とありますが、こちらは複式学級を表すもので、児童数は5年生が3人、6年生が2人いる5・6年生でひとつの学級編成となる、いわゆる複式学級を表しています。

次にオレンジ色の四角と吹き出しをご覧ください。

こちらは特別支援学級で障害種別ごとに学級が分かれるものとなりますが、多度志小学校の場合は、1学級1人という状況となっております。

見方の最後として緑色の四角と吹き出しをご覧ください。

こちらは各年度の学級数と児童数の合計欄になりますが、多度志小学校の場合ですと、

①普通学級は、1・2年生、3・4年生、5・6年生がそれぞれ複式学級であり、3学級

②特別支援学級は、1学級

よって、令和6年度は、①+②=4学級17人という見方となります。

資料2-2では、各学校においてこうした表記を使い将来の推計をしております。各学校において状況の変化が大きくなる部分について赤枠で囲んでおります。

市内全体の状況をお伝えするため、赤枠に関するものを年度ごとに説明していきたいと思えます。

なお、推計にあたり、障害種別によって学級が分かれる特別支援学級については、就学時の児童の状況により学級編制を行うことから、令和7年度以降の入学児童は全員が普通学級に入学するものとして推計しておりますので、説明も普通学級を中心に行うこととします。

令和7年度で見ていただきたいところが③北新小学校です。普通学級は複式学級の3クラスとなります。令和8年度に一旦回復しますが、令和9年度に再び3クラスとなり以降も続きます。

次は④納内小学校です。納内小も令和7年度に普通学級3クラスとなり、令和9年度に一旦回復しますが令和10年度に再び3クラスとなり以降も続きます。

令和10年度に移ります。見ていただきたいのが①深川小学校です。深川小が全学年で普通学級1クラスとなり以降も続きます。

次に⑥多度志小です。入学してくる児童が2年連続で0となることから、令和7年度に普通学級が複式学級の2クラスとなり以降も続きます。

令和11年度に移ります。見ていただきたいのが⑥多度志小です。

2・3年生が0となっていますが、1年生が1名入学見込みであるため、1年生と4年生の飛び複式学級が生まれます。

以上で児童数の将来推計の説明を終わります。

資料1の7ページをお開きください。「4.学級編制基準」と8ページから10ページに記載している「5.教職員配置基準」については、参考情報として掲載しておりますので、今回の説明は省略させてい

たゞきます。

事務局からの資料説明は以上です。